

令和4年度

地域における地球温暖化防止活動促進事業（環境省）

地球温暖化防止活動を行う民間団体等 の活動実態調査報告書

令和5年2月

一般社団法人 環境創造研究センター

目 次

調査の実施概要	1
【ヒアリング対象団体①】森と子ども未来会議（任意団体）	2
【ヒアリング対象団体②】特定非営利活動法人 HAPPY PLANET	13

調査の実施概要

(1) 調査の目的

本調査は、環境省の「地域における地球温暖化防止活動促進事業」の一環として、愛知県において、地球温暖化対策関連の活動に取り組む民間団体等（企業除く）の活動内容、活動状況について把握することを目的に実施した。

調査結果については、今回の調査団体の活動が広く認知されるようウェブサイト等での公開・紹介を行い、関係機関等への情報提供も実施する。

(2) 調査実施概要

調査実施主体	愛知県地球温暖化防止活動推進センター (一般社団法人環境創造研究センター)	
調査対象	県内で活動する民間団体 2団体 ① 森と子ども未来会議（任意団体） ② 特定非営利活動法人 HAPPY PLANET	
調査方法	調査方法	・各団体のリーダー等の活動の中心人物に対して1時間程度のヒアリングによる調査を行った。 ・調査後、とりまとめた内容について各ヒアリング対象者に確認を依頼した。
	調査時期	① 森と子ども未来会議（任意団体）：令和4年12月9日（金） ② 特定非営利活動法人 HAPPY PLANET：令和5年1月22日（日）

(3) 調査項目

<ul style="list-style-type: none">● 設立の目的、経緯● 構成員等の人数、構成● 活動の詳細（内容、活動頻度など）● 活動による効果・影響● 活動上の課題● 行政・企業・ほかのNPO等民間団体との連携状況・連携の可能性と課題● 行政・企業、愛知県センター等に期待すること など

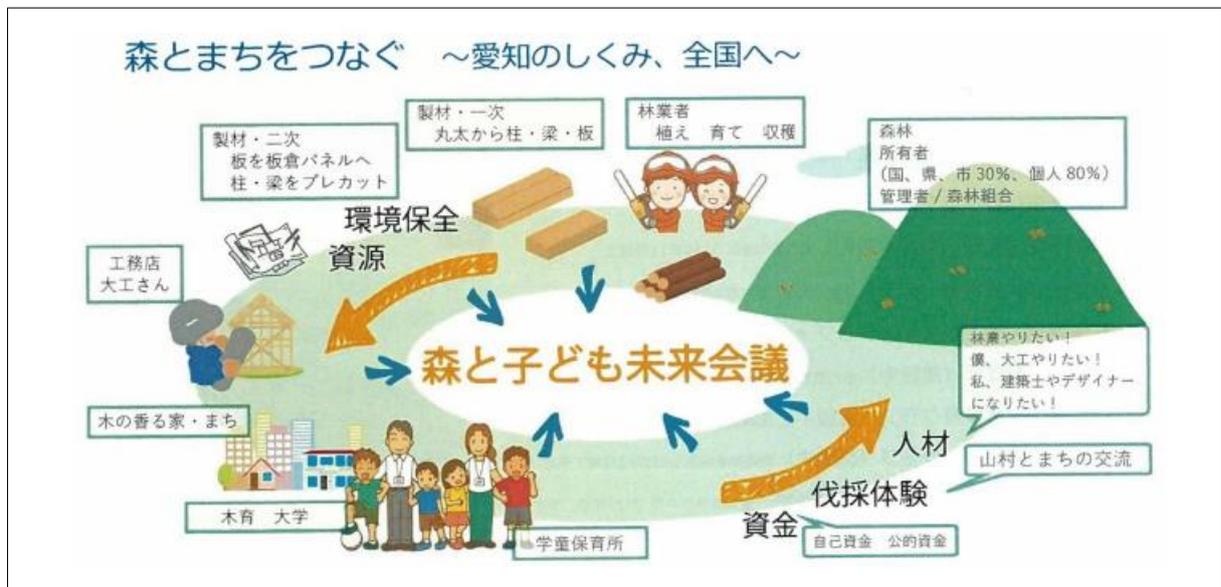
【ヒアリング対象団体①】森と子ども未来会議（任意団体）

団体の概要・ 設立目的等	「森と子ども未来会議」は、地域に関わる様々な団体、個人との協働によって、学童保育施設を板倉構法により木造化することに取り組んでいる任意団体である。伝統構法（板倉構法）による学童保育施設の木造化によって、子どもたちの生活環境を継続的に改善するとともに、我が国の森林や水源の持続的な保全という課題の解決に貢献することを主な目的として設立された。
設 立	2017（平成 29）年 10 月 1 日
構成員	25 団体・企業、個人（設立時）（林業・製材業関係者、工務店、建築家、研究者、学童保育関係者、環境系 NPO 等）
主な活動内容	板倉構法（伝統構法）による学童保育施設の木造化
主な活動場 所、連絡先	事務局：愛知県刈谷市大正町 1-507 TEL：090-8867-7997 e-mail：k-suzuki@taiho-gh.com

（設立の経緯と目的）

- 設立発起人であり、代表を務める鈴木建一さんが、自身の家を建て替える際に、製材・建築業を営んでいた祖父に倣い、地元材を使って冬暖かく夏涼しい、自然エネルギーを活かした家を建てたいと思い森林や林業、木造建築について学ぶ中で、林業や建築、学童保育等に関わる人々と巡り会い、日本の森が抱える課題と子どもたちの生活環境に関わる課題の解決につなげたいと考えるようになり、2017 年 10 月に学童保育施設を板倉構法によって木造化する「森と子ども未来会議」を設立した。
- 「森と子ども未来会議」は、次の 3 点を目的として、学童保育施設の木造化に向けた啓発活動、運営支援、関連する様々な機関・関係者のネットワークの構築活動を行っている。
 - ① 地域と未来を担う子どもの集う学童保育（放課後児童健全育成事業）における施設の生活環境を継続して改善する。学童保育を担う指導員の働く環境整備も同時に推進する。
 - ② 全国各地の子どもに、全国各地の森から生まれる木の建物、家具などを身近に感じて、親しみ、自然との調和、持続的発展の大切さを共に学ぶ。子どもを通じて多世代のつながりを大切にし、自然との調和ある社会と経済の発展に寄与する。
 - ③ 愛知県土の 4 割、国土の 7 割を占める森林や水源の持続的保全は地域と日本の課題です。森林業・製材・建築・エネルギー・環境・インテリア・木工・デザイン・流通・メディア・行政・教育研究機関・各種団体や企業・個人、ボランティア等々の協力体制によって上記①、②の目的を実現する。
- 事業方針として、以下の 4 つを掲げている。
 - ① すべての関係者が対等平等公平のなかで、会議の目的を推進する。
 - ② 其々のポジションや役割を活かし、協力関係を深め、掛け算の力を出す。
 - ③ 開かれた組織運営を基に、仲間を増やす。
 - ④ 事業の長期継続を図る為、各メンバーが共同し経営の自立を目指す。

- 「森と子ども未来会議」は、学童保育関係者に加えて森林所有者、林業、製材業、建築士、工務店や大工、建材家具メーカー、大学教授や学生、メディア、NPO 有志など、愛知県内の25 の団体・企業、個人から構成されており、コアメンバーは、林業・製材業関係者、工務店、建築家、研究者、学童保育関係者、環境系 NPO の6 名からなる。
- 「森と子ども未来会議」という団体の名称は、日本の森や水源、林業が抱える課題と子どもをめぐる課題の両方を同時に解決するという思いで決めたものである。



(主な活動)

● 学童保育施設の木造化

学童保育施設は、児童が放課後や春・夏・冬休みなどの長期休暇に長時間過ごす生活の場であるが、都市部では借地に建てられていることが多いため、容易に建て替えられるプレハブであることが多い。このため、子どもの声や雨音等が反響してうるさい、夏は暑く、冬は寒い上にエアコンも効きにくいといった状況にあり、子どもたちが過ごす場として好ましくない環境にあり、子どもたちの保護者からも不安の声があがっていた。また、地主や周辺住民にとっても、子どもたちの声がうるさい、プレハブの見た目が悪い等、歓迎されない施設となっていた。「森と子ども 未来会議」は、こうした問題を抱えるプレハブの学童保育施設を、地域材を使い日本伝統の板倉構法で建て替えるサポート（啓発、運営支援、関連する様々な機関・関係者のネットワークの構築）を行っている。

これまでに愛知県内で、

- ① 「山里学童保育クラブ」(名古屋市昭和区：2019年7月竣工)
- ② 「あおぞら学童保育クラブ」(名古屋市緑区：2020年7月竣工)
- ③ 「松栄第一・第二学童保育クラブ」(名古屋市昭和区：2021年4月竣工)
- ④ 「中川学童保育所」(内装木質化)(名古屋市港区：2019年11月竣工)

⑤ 「はくほう学童保育クラブ」(尾張旭市：2022年3月竣工)

⑥ 「有松学童保育所」(名古屋市緑区：2022年7月竣工)

が実現しているほか、愛知県外においても、

⑦ 「こどもの家みなみクラブ」(沖縄県南城市：2022年3月竣工)

が実現している。また、愛知県内においては現在、

⑧ 「グッド・ビレッジあのね」(春日井市：2022年8月着工)

の建設が進められているほか、

⑨ 「多米ファイト学園児童クラブ」(豊橋市：2023年着工予定)

⑩ 「富士見台学童保育所」(名古屋市千種区：木造建て替え検討中)

が計画がされている。

学童保育施設の木造化においては、学童を利用する子どもたちに木こりや製材の体験の機会を設けたり、指導員や保護者、子どもが設計に関ったり、経費削減のために外構の木の塀やウッドデッキづくり、塗装作業を行うなど、木にふれたり、森について考えたり、みんなで取り組んだり、できることは自分で行ったりする機会を積極的に設けている。



木造化された「あおぞら学童保育クラブ」



「グッド・ビレッジあのね」、「あおぞら学童保育クラブ」、「松栄第一・第二学童保育クラブ」における「きこり&製材体験」及び学童保育施設づくりへの参加の様子

学童保育施設の木造化によって、施設を利用する子どもたちに「笑顔が増えた」、「室内遊びの幅が広がった」、「それぞれの遊びに集中できるようになった」、「靴下を脱いで足で過ごすことが増えた」、「みんながいる場所でもピアノが楽しめるようになった」といった変化がみられるようになっただけでなく、指導員にとっても、保育の質の向上、職場としての質の向上、新規人材の獲得といったプラスの効果が出ている。

※板倉構法について

板倉とは、日本古来の神社や穀物倉庫に用いられた木造建築技術で、板倉の家はそれを応用したものである。材料は日本原産で日本に豊富にあるスギを使う。

板倉構法は、柱や梁などの構造に加え、床や壁や屋根にもスギの厚板を用いることが特徴で、これにより頑丈で長持ちする、湿気がこもらない、結露しにくい、冬温かく夏涼しい、シックハウスの心配がない、燃えにくい、耐震性に優れるといった特性を有する家をつくることができる。また、国産のスギを使うことで、日本の森を守り、林業振興に貢献することができる。

板倉構法は、工期が短く、解体・移築が可能で災害にも強いことから、この特性を活かして2011年の東日本大震災による被災地において仮設住宅として採用され、およそ200戸が板倉構法によって建てられている。(参考：日本板倉建築協会 <http://www.itakurakyokai.or.jp/itakura>) (2016年に、そのうちの150戸が福島県内で移築再利用され、17年に50戸が西日本豪雨災害のあった岡山県総社市に再移築。2020年にその50戸が再々移築されて快適な住宅として利用されている。)



落とし板壁構法（板倉構法）の作業の様子



板倉構法によってつくられた仮設住宅（福島県いわき市）

① 山里学童保育クラブ（名古屋市昭和区：2019年7月竣工）

山里学童保育クラブは、板倉構法によって建てられた初の学童保育施設で、2019年1月に板倉構法の勉強会を実施し、2月に着工、7月に完成している。

学童施設への入所希望者の増加によって移転あるいはプレハブ施設を建て替える話が持ち上がるなか、学童保育施設木造化プロジェクトの話を聞いていた指導員が「森と子ども未来会議」のメンバーと連絡をとり、愛知県が県産材をPRするために製作した板倉構法の展示物「あいち木づかいの家」を無償で譲りうけるとともに、さらに板倉構法で新築するかたちで実現した。

延べ床面積は、移築部分 60 平方メートル、新築部分 100 平方メートル、合わせて 160 平方メートルの木造 2 階建てで、1 階と 2 階は螺旋階段でつながっている。

プレハブの施設だった頃は、冬は暖房をつけても寒く、夏は冷房をつけても暑かった。また、屋内では音が反響して子どもたちの声が聞こえづらかったり、ピアノを弾くことも気を使っていたりした。建て替え後は、夏はひんやりし、冬は暖かさを感じることができ、子どもたちが騒いでいても話が聞き取れるようになった。快適な施設になったことで、さらに入所希望者が増えている。視察に訪れる人も多く、評判もよい。



(建て替えられる前の施設)



② あおぞら学童保育クラブ（名古屋市緑区：2020年7月竣工）

あおぞら学童保育クラブは、板倉構法による2棟目の学童保育施設で、2020年1月に着工、7月に完成している。

学童保育施設の地主の代替わりによって、土地の返却が求められていた。新たに土地を提供してくれるという人が現れたが、周囲の土地の地主の反対されたため、地域の人に喜ばれる建物にしようと施設の木造化が提案された。木造化については保護者で賛否が分かれたため、保護者と子どもが山里学童保育施設に視察に行ったところ、子どもたちから同様の施設にしたいという強い声上がり、木造化が決まった。

資金は、保護者に出資をお願いしたり、クラウドファンディングを行ったり、歴代のOBから寄付金を募ったり、「あいち森と緑づくり税」を活用した「木の香る都市（まち）づくり事業」で助成をうけたりしている。

プレハブ施設の頃は、子ども同士のけんかやトラブルが絶えなかったが、木造化の後は、けんかはほとんどおきていない。施設の完成後は視察が絶えず、大村県知事も県議会で何度も話題に上げてくれている。また、2021年度より名古屋市議会が家賃補助を出すようになり、22年度からは増額されたことから、土地を購入して恒久的な施設にすることが検討されている。



③ 松栄第一・第二学童保育クラブ（名古屋市昭和区：2021年3月竣工）

松栄第一・第二学童保育クラブは、板倉構法による3棟目の学童保育施設で、2021年3月に完成している。

プレハブ施設は、老朽化によって雨漏りや隙間風が入るといった問題点のほか、夏はエアコンをフル稼働させても35℃を下回らず、熱中症になる子どももいた。音の反響という問題も子どもたちのストレスになっていた。その他、耐震性基準を満たす建物にすることや受け入れ児童数を増やしたいという事情も抱えていた。

そうした中、2020年に愛知県の「あいち木の香る都市づくり事業」に採択され、この補助金と保護者会の積立金によって、総事業費の半分以上を調達することが可能となった。足りない資金は、保護者とOBからの貸付、寄付やクラウドファンディングで調達した。木造化の第1号となった山里学童保育施設は同じ区にあることから、話を聞いたり、アドバイスを受けたりして事業を進めた。

建て替え後は、1階と2階に分けて第一・第二学童となり、子どものけんかも大きく減っている。地域の公民館的な役割を担うことも目指しており、老人会による和太鼓の練習で子どもたちとの交流も生まれている。プレハブでは想像もつかないほど音漏れも無く、地域とのつながりが生まれている。



● 学童保育施設の木造化勉強会の開催

「森と子ども未来会議」では、より良い学童保育環境づくりの推進に向けて、施設の木造化を考える勉強会（4回講座）を2021年4月から実施しており、学童保育関係者、森林土木関係者、大学生など様々な人の参加を得ている。

プログラムは、1日目：木造学童の体感と体験談、2日目：伐採・製材体験と林業、3日目：木造施設の性能と地域連携、4日目：木造化プラン作りとなっており、なぜ木造の家や施設が良いのか、子どもの成長と地域の森林の育成や循環利用が心身の健康やSDGsにどう繋がっていくのか等について学ぶ内容になっている。

学童保育の木造化勉強会 21年4月開講
より良い保育のために 施設の木造化を考える



森と子ども未来会議は、学童保育の木造化・木質化を、地域の森から、顔の見える関係を大切にして取り組んできました。この取り組みは子どもや保護者、指導員の思いや願いをカタチにできるものと考えています。4年間の活動で徐々に成果が現れ、地域や行政からも注目されるようになり、豊知黒から全国に広がっております。

なぜ木造の家や施設が良いのか、体感とともに様々な科学的見地に触れます。子どもの成長と地域の森林の育成や循環利用が、心身の健康やSDGsにどう繋がっていくのかを学びます。熱く気鋭の講師をお招きし、4回にわたる講座で実践的なプラン作りまでを学びます。

プログラムの内容	日時・場所	内容	講師
1日目 木造学童の体感と体験談	4月10日(土)13時～17時 於：あおぞら学童保育クラブ	木造施設を体感します。建設の経緯、子どもの変化、行政の変化、体験談などから学童木造化の全体像を学びます。	小嶋 百志 高田 徹弘 村瀬 昇
2日目 伐採・製材体験と林業	5月8日(土)10時～17時 於：千代町栗枝と園田の森	人工林での伐採体験、製材所での製材見学。日本の森林と地域林業の現状を学びます。オプション企画で常泊交流会を開催(愛知県野外教育センター泊)。	唐澤 晋平 白井 仁士 丹羽 健司
3日目 木造施設の性能と地域連携	6月12日(土)13時～17時 於：松栄学童保育クラブ	木造施設の健康環境性能、耐震耐火性能、SDGsとの関連性や木(住)育の重要性、地域連携の大切さを学びます。	山崎 真理子 辻 充孝 岡野 和彦
4日目 木造化プラン作り	7月3日(土)10時～17時 於：あおぞら学童保育クラブ	学童保育所を木造化するための実践的プラン作りを学びます。午前中産学、午後からワークショップを行います。	東海林 修 ほか1～3日目の講師



また、ZOOMによる定期的な勉強会を開催し、南は沖縄から北は山形県まで幅広く参加者が集まり、「木造化勉強会1周年スペシャル」として、2021年8月28日には全国学童保育木造化オンライン勉強会を開催し、全国から40名超の参加があった。

全国に広がる仲間
 ～より良い保育のために施設の木造化を考える～
全国学童保育木造化オンライン勉強会




2020年8月から始まった本勉強会。2021年8月には1周年を記念してスペシャル企画が行われ、全国から40名以上の参加者がありました。

● 中部のいい川ワークショップへの参加

「中部のいい川ワークショップ」は、中部流域連携ネットワーク主催のイベントであり、天竜川流域の中部 5 県（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県）の川に関わる活動をしている市民団体や学校、子ども会等が一堂に集まり、その活動内容を発表するイベントである。

「森と子ども未来会議」は、普及啓発活動の一環として、2022年11月に行われた第1回ワークショップに参加し、日本の森と子どもの生活環境が抱える課題の同時解決を目指す取り組みとして、学童保育施設の板倉構法による木造化について発表している。



● 日本環境教育学会中部支部・第2回中部支部大会への参加

「森と子ども未来会議」では、日本環境教育学会中部支部主催の「第2回中部支部大会」（2021年12月18日～19日にオンラインにて開催）において学童保育施設の板倉構法による木造化の取り組みを発表している。

大会は「教育現場でSDGsをどう実践するのか？～幼児・初等・中等教育・社会教育の現場から～」をテーマに、幼保小中高の先生、自然学校の関係者などが話題提供（実践発表）し、参加者同士が繋がり意見を交わしながら中部地域における環境教育実践研究の方向性について議論されている。「森と子ども未来会議」は、社会教育をサブテーマとする第3セッションで活動の報告を行っている。



(活動による成果、波及効果、影響)

● **名古屋市、愛知県における学童保育施設の木造化への支援の動き**

「山里学童保育クラブ」(2019年7月完成)、「あおぞら学童保育クラブ」(2020年7月完成)には、愛知県知事や名古屋市子ども青少年局長、名古屋市議会議員等が視察に訪れており、子どもたちが過ごす場にふさわしい環境であるとの評価を得ている。その結果、それまで名古屋市では土地を確保すればプレハブの建物を無償提供していたが、さらに2022年度から学童保育施設の「内装の木質化」のための予算が計上されるようになってきている。また、2021年度から家賃補助の限度額も拡充されている。



● **「脱炭素チャレンジカップ 2022」において文部科学大臣・優秀賞を受賞**

「森と子ども未来会議」は、学童保育施設の木造化の取り組みが評価され、「脱炭素チャレンジカップ 2022」において、文部科学大臣・優秀賞を受賞している。

「脱炭素チャレンジカップ」(2011年~2019年は「低炭素杯」という名称で実施されていたものが2020年以降名称を変更して実施されている)は、脱炭素を目的として、学校・団体・企業・自治体などが行っている地球温暖化防止に関わる地域活動を表彰している全国大会である。

「森と子ども未来会議」は、2022年2月に全国で行われている様々な取り組みの中から文部科学大臣賞・優秀賞を受賞している。



上写真：オンラインでのプレゼン
下写真：表彰式の様子

(今後の課題)

- **学童保育施設の木造化の全国展開**

学童保育施設は愛知県内に 1,000 箇所以上、全国にはおよそ 25,000 箇所あると言われている。「森と子ども未来会議」は、名古屋市内の学童保育施設はもちろんのこと、愛知県内、さらには全国に学童保育施設の木造化の取り組みを広げることを目指している。これまで、全国学童保育連絡協議会において、施設の木造化の取り組みを紹介したり、オンライン勉強会を開催したりするなど、普及啓発活動を行っているほか、2023 年 5 月には大阪商工会議所において講演を行うことが予定されており、2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）において板倉構法の紹介を行うことも目指している。

- **「森と子ども未来会議」の法人化**

「森と子ども未来会議」は、現在任意団体となっている。学童保育施設の木造化を愛知県内、さらには日本全国に広げながら継続して行っていくためには、資金や設計から入札、契約、伐採、製材、建築など一連の取り組みを行うための体制づくりが必要となることから、組織の法人化を目指している。

- **板倉構法による木造化を継続していくための森づくり、人づくり**

板倉構法による施設の木造化を継続的に進めていくためには、木材を安定して調達できるようにするとともに、板倉構法という伝統構法を継承する人材や製材を行ってくれる業者を育てていくことが不可欠となる。

- **第 20 回アジア大会の選手村宿泊施設の板倉構法による整備を提案**

2026 年に名古屋で開催が予定されている第 20 回アジア大会のメイン選手村は、名古屋競馬場跡地を利用することが計画されている。「森と子ども未来会議」は、選手村の宿泊施設の計画の募集に対して、板倉構法によって仮設宿泊施設（およそ 8000 人分）およびメインダイニングホール（10,000 m²）を整備する計画を策定し愛知県に提案している。板倉構法は、解体・移築が可能であることから、大会終了後は学童保育施設や保育所・小中学校校舎、福祉介護施設等として移築、再利用することを合わせて提案している。アジア大会の選手村で板倉構法による施設整備を行うことによって、脱炭素や省エネに貢献するとともに、板倉構法の認知度を高め、普及啓発の機会としたいと考えている。

【ヒアリング対象団体②】 特定非営利活動法人 **HAPPY PLANET**

<p>団体の概要・ 設立目的等</p>	<p>「NPO HAPPY PLANET」は、地球に優しいコミュニティを作り、環境問題・社会問題に対し、意識啓発活動を行い、それらの解決に寄与することを目的として、ドイツ、ベルギー、日本出身の3人の若者が設立した非営利活動法人で団体である。</p> <p>「NPO HAPPY PLANET」は、多様性を認め合い、誰一人取り残さない平等な世界を目指し、人種・年齢・国籍・性別を超えて地球に優しいマインドを持ったコミュニティを広げながら、思いやりを通じて大きな世界が村のような感覚で繋がっていくことを目指している。</p>	
<p>設 立</p>	<p>2022年9月（2021年ごろより任意団体として活動を開始）</p>	
<p>構成員</p>	<p>フंक カトリン（代表理事 ドイツ出身）、デレイク ヤスミン（理事 ベルギー出身）、富田美咲（理事 日本出身）</p>	
<p>主な事業内容</p>	<p>「ひとりの100歩よりもみんなの1歩」を合言葉に、持続可能な開発を目指すSDGsや、温室効果ガス削減を目指すパリ協定など、今、世界や日本で起きている様々な環境問題や社会問題について、ひとりでも多くの人に知ってもらうこと、そして、ひとりひとりがどんなことにどうやって取り組んだらいいのか、できることを見つけて行動してもらうことを目指し、様々なイベントの開催とインターネットによるわかりやすい情報発信を行っている。</p> <p>（主な事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CITY CLEAN UP 名古屋市内ごみ拾い ・THE GREEN SCREEN ドキュメンタリーの上映会 ・地球カフェ 社会問題について気軽に話し合う会 ・CLEAN CUISINE 名古屋の美味しいベジフードを食べてみましょう！ ・BEACH CLEAN UP 海岸（知多半島や蒲郡市）のごみ拾い ・服の交換会 ・その他 	
<p>主な活動場所、連絡先</p>	<p>事務局：〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目44番17号 嶋田ビル203室 TEL：0808372247</p>	

（設立の目的と経緯）

- 代表理事であるフंक カトリンさんがかつてホームステイをしたことのあるフィリピンのレイテ島を2013年に巨大な台風が襲い、甚大な被害が生じ死者も多数出た。フィリピンのような発展途上国に暮らしている人たちは自然とともにある暮らしを送っておりCO₂をほとんど排出していないにもかかわらず、地球温暖化の影響を最も受けてしまっていること、自分のような先進国に暮らす人々が多くのCO₂を出してきたことが世界の反対側に住んでいる人々に大きな犠牲を強いる結果を招き、幸せを奪ってしまっていることに気づいた。それまでは気候変動や環境問題は、政治家や企業が取り組む問題と思い込んでおり、初めて自分が地球温暖化とつながっていることを感じた。このことがきっかけとなり、プラスチック製品をできるだけ使わないようにしたり、再エネに切り替えたり、食生活をヴィーガンにするなど、自分自身の暮らしを地球により優しいものに変えていった。
- そうするなかで、1.5℃の目標年である2030年まであとわずか7年しかないことを知り、家の中でひとりで取り組むだけではなく、外に出て仲間とともに、もっと多くの活動ができる

のではないかと考え、スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんが始めた「Fridays For Future」の活動を名古屋でも行おうと、高校生、大学生とともに「Fridays For Future (FFF) NAGOYA」を立ち上げ、マーチを行ったり、企業に働きかけを行ったりした。



- 「Fridays For Future」は学生中心の活動であることから、社会人の人たちとも一緒に活動したいと考え、まずは少しでも多くの人に環境問題について知ってもらおうと、デレイク ヤスミンさん、富田美咲さんとともに「HAPPY PLANET」（任意団体としてスタートし、2021年に特定非営利活動法人として認証）を立ち上げ、楽しく気軽に参加できるチャリティイベントを開催するなど、地球に優しいマインドや行動を広める活動を行っている。
- 「NPO HAPPY PLANET」の特徴は、思いやりや優しさを大切にしていること。たとえば、服の生産者の顔が見えていたら服をもっと大切にできるようになるように、みんなが環境や人、社会に対する思いやりを持てば、行動が変わるという思いで活動を行っている。
- 「やめましょう」、「間違っている」と人を否定したり、厳しい言葉や態度で自分の考えを押しつけたり、我慢を強いたりするのではなく、また、完璧や「ひとりの100歩」を求めるのではなく、みんながお互いを認め、前向きな言葉を掛け合い、笑顔で楽しみながら「みんなの1歩」を広げていくことを目指している。環境活動を意識の高い人が行うこととして敬遠するのではなく、楽しいこと、かっこいいことに変えていきたいという思いで活動している。
- 「NPO HAPPY PLANET」は、行動の柱として以下の3つを掲げている。

① 情報提供 (Getting to know)

行動してもらうためには、まず、SDGsのような、私たちがその解決に貢献できる社会・環境課題を知ってもらうことから始める必要があると考え、定期的にセミナーやミーティングを開催し、情報提供を行っている。



② 行動への一歩 (Calling for Action)

具体的なアクションにつながることを目指し、問題が大きすぎて何をしたらいいかわからないという人たちに個人でできることを紹介したり、企業や行政に働きかけを行ったりしている。



③ ネットワーク作り (Building a Network)

同じ志を持つ仲間と出会うこと、一緒に行動することが、次のステップや大きな成果につながるという考えのもと、現在と次の世代のために持続可能な未来を創りたいと願う人々に力を与えるネットワーク作りに取り組んでいる。



(主な活動)

- 「NPO HAPPY PLANET」では、市街地や海岸でのごみ拾い（CITY CLEAN UP、BEACH CLEAN UP）、環境や社会問題をテーマとしたドキュメンタリー映画の上映会（THE GREEN SCREEN）、ベジフードを食べる食事会（CLEAN CUISINE）、環境問題や社会問題について意見交換を行う会（地球カフェ）、服の交換会など、気軽に参加し楽しめるイベントを毎月 4~5 回開催しており、過去 1 年間に 50 回以上のイベントを開催している。
- イベント開催の告知は、「NPO HAPPY PLANET」の HP や SNS（facebook、Instagram、LINE 等）で行っている。
- イベントには、20 代~30 代を中心に、小学生からお年寄りまで幅広い世代の参加がある。毎月同じイベントに参加する人が多い一方で、複数のイベントに参加している人も多い。



① CITY CLEAN UP 名古屋市内ごみ拾い（毎月1回）

毎月第3週目の土曜日に、名古屋市の久屋大通りから白川公園でごみ拾いを行っている。

朝 10 時に久屋大通公園のテレビ塔北側に集合し、白川公園まで散歩をしながら 11 時頃までごみ拾いを行い、その後、参加者でどんなごみがどれくらいあったのか、どうしたら街のごみを減らせるかといった話合いの場を持っている。

2022 年は 1 月～12 月の間に 12 回実施し、年間で合計 200 名の参加があり、およそ 600kg のごみを回収している。



2022年	合計 / total	燃えるごみ / burnables	資源物 / recyclables	燃えないごみ / non burnables
1月 / Jan	67	27	17	23
2月 / Feb	31	12	8	11
3月 / Mar	55	22	14	19
4月 / Apr	55	23	15	17
5月 / May	51	20	13	18
6月 / Jun	79	20	40	19
7月 / Jul	61	24	15	21
8月 / Aug	26	10	7	9
9月 / Sep	88	35	22	31
10月 / Oct	65	26	16	23
11月 / Nov	16	6	6	4
12月 / Dec	21	5	13	3
Total	615	204	169	175

単位 : Kg



② THE GREEN SCREEN ドキュメンタリーの上映会（毎月1回程度）

名古屋市内のカフェを会場またはオンラインで、環境問題や社会問題（ジェンダー平等、LGBTQ に関わる問題、情報格差の問題等）をテーマとするドキュメンタリー映画の上映会を行い、参加者で感想や行動への一歩に向けたアイデアなどの意見交換を行っている。

これまでに、「不都合な真実」、「地球が壊れる前に」などの上映を行っており、2022 年は 1 月～12 月の間に 10 回開催し、年間で合計 150 名の参加があった。

2022年	映画	
3月 / Mar	『地球が壊れる前に』	Before the flood
4月 / Apr	『監視資本主義 デジタル社会がもたらす光と影』	The Social Dilemma
5月 / May	『ストーリー・オブ・プラスチック』	The Story of Plastic
6月 / Jun	『トランスジェンダーとハリウッド:過去、現在、そして』	Disclosure
7月 / Jul	『Seaspiracy 偽りのサステナブル漁業』	Seaspiracy
8月 / Aug	『不都合な真実 2 ～ 放置された地球 ～』	An inconvenient sequel
9月 / Sep	『世界の果ての通学路』	On the way to school
10月 / Oct	『フード・インク』	Food inc.
11月 / Nov	『聖者たちの食卓』	Himself He Cooks
12月 / Dec	開催なし	No event held



③ 地球カフェ（毎月1回）

毎月第3金曜日に、名古屋市内のカフェを会場に、環境問題や社会問題など、毎回ひとつのテーマについて気軽に話し合う場として地球カフェを開いている。地球に優しくありたいというマインドを持っている人たちが繋がる場として、また、お互いを否定せず様々な意見を聞き、理解し合う場としている。

2022年は1月～12月の間に12回開催し、年間で合計200名の参加があった。



④ CLEAN CUISINE※ 名古屋の美味しいベジフードを食べてみましょう！（毎月1回）

地産地消、プラントベース等、環境に配慮した食を提供している愛知県内のレストランを紹介するとともに、実際に食を楽しむイベントとして毎月行っている。

2022年は1月～12月の間に12回開催し、年間で合計100名の参加があった。

※CUISINE：フランス語で料理や食事を意味する言葉

2022年	レストラン	Restaurant
1月 / Jan	ヴィーガン味噌煮込みうどん@山本屋大久手	Vegan Miso Stewed Udon Noodles @ Yamamoto-ya Okute
2月 / Feb	ヴィーガン中華@梅国	Vegan Chinese @ Umezono
3月 / Mar	ヴィーガン X 有機野菜居酒屋「楽楽」	Vegan X Organic Vegetable Izakaya Rakuraku
4月 / Apr	ネクスト・ミーツを使ったヴィーガンBBQ	Vegan BBQ with Next Meats
5月 / May	玄米食の店のら	Brown Rice Meal Restaurant Norah
6月 / Jun	卵・乳製品・小麦を使用しない野菜カフェen-kitchen	Vegetable Cafe en-kitchen with no eggs, dairy or wheat
7月 / Jul	ベジキッチン・グーグー	Veggie Kitchen Goo Goo
8月 / Aug	日本と海外のヴィーガンについてのインスタライブ	Insta-live about veganism in Japan and abroad
9月 / Sep	ヴィーガンピクニック/UBERできるヴィーガン食	Vegan picnic with Uber eats
10月 / Oct	ヴィーガンカフェ OYASAI	Vegan Cafe OYASAI
11月 / Nov	ヴィーガンランチ @nagi栄店	Nagi Sakae vegan Lunch
12月 / Dec	ヴィーガン忘年会@有機野菜居酒屋「楽楽」	Vegan Year-End Party @Organic Vegetable Izakaya Rakuraku

／ CLEAN CUISINE ／

WHPY PLANET

WHY VEGAN?

～気候変動～
 家畜産業に起因する温室効果ガスの排出量は
 車・飛行機・バス・船といった全ての交通機関からの
 排出量よりも多い

～資源の保護～
 家畜産業は地球の土地の45%を使用
 淡水の20%～33%を使用
 熱帯雨林破壊の最も大きな原因

～健康～
 ベジタリアン料理は心臓病、
 高コレステロール値、高血圧、糖尿病、がん
 などの恐れを低下させる

～食糧問題～
 1kgの牛肉を作るのに10kgの穀物が必要であり、
 飢餓や食糧危機で苦しんでいる人が食べられるはずの
 穀物が畜産の餌になっている

～動物福祉～
 日本で屠殺される牛、豚、鶏の数は年間約6億5769万
 「工業畜産」が一般的

情報源：NPOベジプロジェクトジャパン



⑤ **BEACH CLEAN UP 海岸（知多半島や蒲郡市）のごみ拾い**（年 2~3 回程度）

愛知県の知多半島（内海、野間）や蒲郡市の海岸において、海辺の散歩を楽しみながらごみ拾いを行っている。BEACH CLEAN UP のイベントは、環境に優しい食を楽しむイベントである CLEAN CUISINE のイベントとあわせて行っている。

2022 年は 1 月~12 月にかけて 3 回実施し、合計 90 名の参加があった。



⑥ **服の交換会**（年 2~3 回）

ライフサイクルの短いファストファッションの増加により、衣類も環境を汚す要因のひとつとなっていることから、もっと服を大事にしてほしいとの思いのもと、季節の変わり目などに服の交換会を行っている。



⑦ セミナー・講演会の開催、参加

環境活動家や専門家、環境活動に力を入れている企業関係者等を講師に招いてセミナー、講演会、トークイベントを行っており、今後、実施回数を増やしていきたいと考えている。
また、他の団体が主催するトークイベントにも積極的に参加している。



⑧ ワークショップの開催

今日から取り組める地球に優しい生活の提案として、「ミツロウラップを自分で作ろう」、「Tシャツでトートバッグを作ろう」、「電気を自分で作ってみよう」、「Tシャツを自分で染めてみよう」など、講師を招いて様々なワークショップを開催している。



⑨ オンラインイベントの開催

- **パブリックコメントを書いてもらうキャンペーン**
政府や地方自治体が行っているパブリックコメントについて情報提供するとともに、その書き方を一緒に学ぶワークショップを開催している。
- **フェアトレード消費者アクション**

チョコレートの原材料であるカカオ豆の生産農家の多くが極端な低賃金、長時間労働、児童労働、貧困などの問題を抱える中、チョコレート会社に対してフェアトレードの商品を導入してほしいと呼び掛けるオンラインイベントを2021年2月から行っている。

「NPO HAPPY PLANET」のHPに、日本の大手チョコレート会社やコーヒー会社等の問い合わせ窓口へのリンクと呼びかけ文書のテンプレートを掲載しており、これまでに100名以上の参加があった。



⑩ 行政への働きかけ

● 名古屋市長へゼロカーボンシティ表明の要望書提出

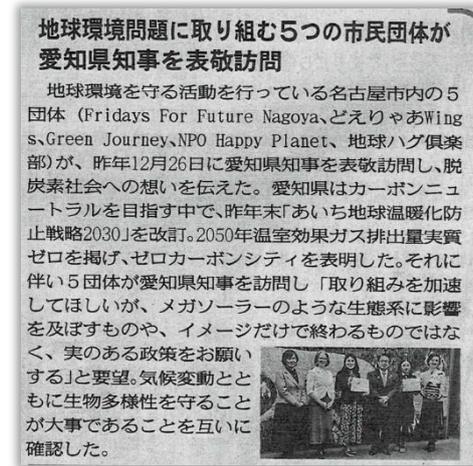
「NPO HAPPY PLANET」は、名古屋市内で活動する5つの市民グループ（Green Journey、地球ハグ倶楽部、Fridays For Future Nagoya、どえりゃあ Wings、オーガニック名古屋市政の会）とともに、名古屋市役所を訪れ、河村たかし市長に2050年の二酸化炭素排出実質ゼロ（ゼロカーボンシティ）を表明するよう、要望書を提出した。



(2022.3.13 中日新聞)

● 愛知県ゼロカーボンシティ表明に伴い知事を表敬訪問

「NPO HAPPY PLANET」は、地球環境を守る活動を行っている名古屋市内の4つの団体（Fridays For Future Nagoya、どえりゃあ Wings、Green Journey、地球ハグ倶楽部）とともに、2022年12月26日に、ゼロカーボンシティ表明に際して、脱炭素社会の実現に向けて、生態系に影響を及ぼすメガソーラーやイメージだけの取組みではなく、実のある政策によってその取組みを加速してほしいと要望した。



(2023.1.14 中日新聞)

⑪ その他

● 環境デーなごやへの出展

市民・事業者・行政の協働のもと、よりよい環境づくりに向けて具体的な行動を実践する契機とするために2000年から行われている「環境デーなごや」に2021年から出展している。



● ウクライナ物資支援

ウクライナ国内の団体と連携を取りながら物資を届ける活動を行っている。

● Web コラムの発行

年4回、様々な社会問題・環境問題、そして私たちができることをテーマに、Web コラムを発信している。

気候変動ニュース
最近の異常気象について
 ...
 地球の平均気温は、産業革命期に比べて既に1.2℃上昇しています。この1.2℃の気温上昇によって世界の気候が変わり始めています。

1.2℃の気温上昇で起きること
 ①気温が1℃上昇することにより、空気中の水蒸気の量が7%増加するとされています。水蒸気が多くなることで普段雨が降る地域で雨がより多く、より長く降ります。
 ②雨が普段あまり降らない場所では、気温上昇が更に地中の水を奪うことにより、乾燥が激化し、干ばつを引き起こしてしまいます。

③北極の気候が温暖化し、北極と南の極緯度地域との温度差が少なくなることによって、ジェット気流の波が大きくバラついてしまおうとされています。それによって極端な地域に異常気象がより多く発生してしまいます（下の図をご参照ください）。

通常の極ジェット気流

弱い極ジェット気流

(今後の目標と課題、行政・企業・民間団体等に期待すること)

- **愛知県を環境先進県に**

愛知県は日本で最も CO₂を出している県であり、愛知県が環境先進県になる意義と効果は非常に大きい。将来的には「NPO HAPPY PLANET」の活動を県外にも広げたいと考えているが、まずは愛知県が環境先進県になることを目指し、行政、企業、消費者、みんなの意識が変わって行動につながるよう貢献したい。

- **みんながほっとでき、みんなで成長できる場づくり**

「NPO HAPPY PLANET」のイベントを実施し、地球に優しい生活をする人が増えるようにするだけではなく、「NPO HAPPY PLANET」のイベントが、参加者同士で情報交換することによって人間として成長できたり、仲間を見つけてほっとできたり、優しい気持ちになれ、自分らしくいられる場にしていきたい。また、何かやりたいと思ってもなかなか一人では行動できないでいる人のお手伝いをしていきたい。

- **企業に対して**

環境活動に取り組んでいる企業を称賛したり、紹介したりする活動をしていきたい。また、企業にとって消費者の声が届くことは嬉しいことと考えられるため、2021 年から行っている「フェアトレード消費者アクション」のように、消費者のパワーを引き出し、消費者の声を企業に届けることで、企業の環境活動への取り組みを促していきたい。

- **環境団体間の横のつながりの強化**

愛知県内には環境団体がいくつもあるので、その活動の波を大きくし、行政に声をしっかり届けるためにも、団体間の横のつながりを強くしたい。団体同士がつながることで、それぞれの負担を軽減することができると考えている。

- **活動資金の確保**

活動を継続していくための資金の確保が課題となっている。イベントを有料にすると参加へのハードルを上げてしまうことにつながるため、誰でも気軽に参加できるように無料で行いたいと考えており、イベントの参加者それぞれの思いで活動を支援をしてもらうためのドネーションボックスを設けることも考えている。

令和4年度
地域における地球温暖化防止活動促進事業
(愛知県地球温暖化防止活動推進センター)

地球温暖化防止活動を行う民間団体等の活動実態調査

報 告 書

発行 令和5年2月

問合せ先 一般社団法人 環境創造研究センター
〒461-0005 愛知県名古屋市東区東桜 2-4-1
TEL : 052-934-7295 FAX : 052-932-7296
E-mail : cca-info@kankyosoken.or.jp
URL : <http://www.kankyosoken.or.jp/>